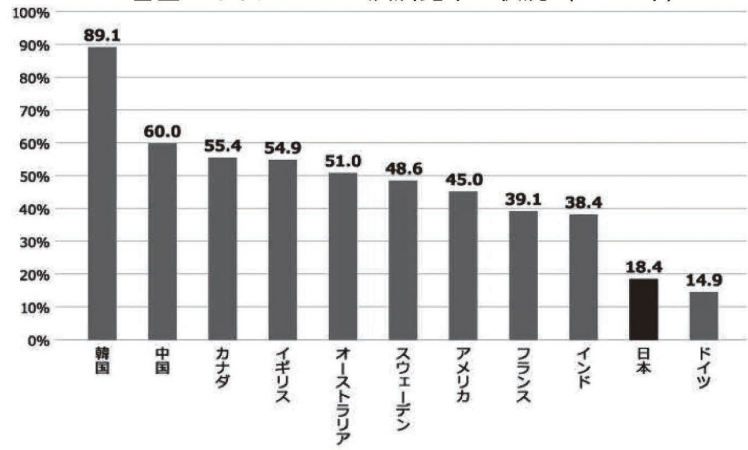


キャッシュレスとは...



各国のキャッシュレス決済比率の状況（2015年）



※経済産業省（キャッシュレス・ビジョン）

外国人観光客の多くの国では、キャッシュレス決済が一般的となつていきますので、これらの需要に対応するキャッシュレス化は欠かせません。

小樽市内でもキャッシュレス決済を導入している事業所が増えていますが、訪日外国人の購買機会を逃さないためにもキャッシュレス化を推進させる必要があります。

店舗のキャッシュレス化

店舗がキャッシュレス決済を導入する場合、どのようなメリット・デメリットがあるのかをご紹介します。

メリット

- ①スピーディーな決済
レジで紙幣や硬貨のやり取りがなくなり、スムーズかつスピーディーな決済ができます。
- ②店舗の業務効率化
閉店後の集計の際、紙幣や硬貨を数えたり、銀行に入金したりといった現金管理の手間を省くことができます。
- ③訪日外国人消費の高まり
訪日外国人にとって、日本円に両替する煩わしさから、買い物

キャッシュレス比率を高める

日本では、2021年の東京オリンピック・パラリンピックや、2025年の大阪・万国博覧会に訪日外国人が大幅に増加すると見込まれています。しかし、キャッシュレス比率を国別でみると、韓国は約89%、イギリスでは約55%、アメリカでは約45%で、日本は18.4%と諸外国に比べ普及が遅れています。

2018年4月、国の本格的なキャッシュレス化推進の取り組みがスタートしました。

経済産業省が「キャッシュレス・ビジョン」を策定し、2015年に約20%であった日本国内のキャッシュレス比率を2027年までに40%に引き上げることを目標にしています。

「キャッシュレス・ビジョン」とは、消費者の利便性や事業者の生産性向上のため、あるいは訪日外国人客の購買機会をより多く獲得するために、キャッシュレス決済の普及を推し進めていくというものです。

※キャッシュレス・ビジョンの主な目的

訪日外国人対策としてキャッシュレス環境を整備

消費者の利便性・安全性向上

事業者の生産性向上・コスト削減

●キャッシュレスとは

キャッシュレス化推進の背景には、消費者にとつて現金を持たずに買い物が可能になることで紛失等のリスクが軽減されること、事業者にとつても現金管理コストの削減による生産性向上など、様々なメリットが期待されています。クレジットカードもキャッシュレスの一つですが、クレジットカードとは異なる新しい支払いサービスは多様化しており、今後も様々なサービスが登場することが予想されます。

一口にキャッシュレスといってもクレジットカードや交通系ICカード、タッチ型、QRコードなど決済手段は多岐にわたります。海外では、決済端末にかざすだけで支払いが完了するタッチ型決済が主流となっています。国内では、クレジットカードの他、交通系ICカードで電車やバスに乗車すること、さらには、税金や各種保険料を銀行口座から引き落とす場合もキャッシュレス決済となり、私たちの生活には、以前からキャッシュレス決済が身近なところで普及していることが分かります。

デメリット

や食事を思い留まることがあります。キャッシュレス化が進めば消費が高まることが予想されます。

④お金の流れの透明化
キャッシュレス決済ではお金の流れがすべて記録されるので、使用履歴の確認や不正行為の防止につながります。

- ①個人情報流出するリスク
- ②導入初期費用や手数料（決済・振込）の経費が発生
- ③売上を現金化するまでの時間
- ④通信等の環境整備が必要
- ⑤新たな悪用詐欺の懸念

主なキャッシュレス決済手段



キャッシュレスのメリット		
消費者	利便性	現金の煩わしさの軽減
		決済スピードの向上
		手ぶら感（スマホ等決済）
		場所・時間の自由さ（EC）
	お得感	ポイント、割引、キャンペーン
事業者・お店	安全性	現金の紛失・盗難リスク軽減
	データ活用	消費管理が可能
	経済効果	売上単価の向上
		売上機会の増加
		新規顧客獲得（特に外国人）
	現金コスト削減	決済スピードの向上
		現金出納事務、現金管理の軽減
		盗難リスクの低減
データ活用	データ活用	売上管理、記録の簡易化
		売上分析の実現